

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200487		
法人名	医療法人 以心会		
事業所名	グループホーム たつのおとしご		
所在地	岡山県倉敷市福田町古新田146-4		
自己評価作成日	令和 6年 1月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 6年 2月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした家庭的な環境のグループホームで安心して生活して頂けるよう適切な介護を行うとともに、身体的なりハビリや脳リハ等行うことによりADLの維持を心掛けていきます。また隣接する医院や主治医と連携を密にする事で安心して生活していただけます。そして地域の方との交流も図っており、地域行事の参加もしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者本位で考え残存能力の維持に努めていたり、隣の難波医院の特浴を使い浴槽に「浸かる」事を大事にしていたり、地域と密接に関わり理念の「心を以て医療、福祉に貢献する」を話の様々な部分から感じ取ることができました。母体である難波医院からの入居も多く、地域に根ざした福祉ができています。研修からの知識をもとに日々の業務と照らし合わせよりよい介護に繋げるように意識している様子が窺えました。現在はコロナ禍で行なえていませんが、地域の祭りや駐車場で家族も含めた食事をしたりと積極的に地域とも密接に関わるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心を以て地域医療・福祉に貢献する」利用者様と地域住民の方と交流する中で関わっている。新型コロナウイルス感染拡大の為、制限がかかっていたが元の状態に戻れる様にしていきたい。	「心を以て」利用者本位に考えを汲み取ることが大事にしている様子が窺えます。また、カンファレンスの中で代表からの意思や意見、思いを共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大に伴い制限があり、殆ど交流は出来ていない。が、季節の花や果物を届けて下さり、干し柿作りを行った。	隣家の方にグループホーム敷地内の花壇やプランターの手入れ、管理をしてもらっていたり、畑で出来た野菜や果物を差し入れてもらったりと、地域と密接に良好な関係を築いている様子が窺えます。	隣家の方ととても良い関係が築けている様子が窺えました。これからも第2、第3の隣家さんのような存在が出来る地域との関わりもより良いものになると思われるため、以上の点に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「心を以て地域医療・福祉に貢献する」利用者様と地域住民の方と交流する中で関わっている。新型コロナウイルス感染拡大の為、制限がかかっていたが元の状態に戻れる様にしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染拡大の制限があり、開催は出来ていない。6月より倉敷市の意向により再開している。	運営推進会議の「知見を有するもの」として同地域のホームの人と行き交っており、似て非なる立場からの意見や情報を得て、運営にフィードバックできている様子が窺えます。	同地域とのグループホームとの関わりが密接にあるためこれからもお互い相談、情報交換を行いよりよい運営ができるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法改正や、業務の中で不明な点は確認を行っている。また、高齢者支援センターとも入退去等で情報共有している。	市の職員と気軽に相談できる関係性を築いており、困難事例での入退去の相談も行なったり、分からない事はすぐに確認できています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を3ヶ月に一度必ず行い、拘束について話し合っている。玄関の施錠は危険防止の観点から一部行っている。	身体拘束の内容や対応を定期的に確認しており、ロールプレイング方式で考えたりテストを行なうなどして知見を深めています。その知識のおかげで普段の業務を疑問視し、確認できる視点を養えている様子が窺えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員の研修を行い、入居の際に自宅での様子等聞き取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居の際に成年後見人制度の利用も可能であることのお知らせをしている。年1回以上の職員研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に電話等のやり取りを数回行ない、説明し理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がフロアー内への入室制限があり、施設内での様子が知りたいとの要望があり、写真の提示をしながら近況報告を行った。	家族向けには定期的に行事の様子が窺える便りを出して近況報告をしています。家族と話したいという入居者の要望には電話をかけて面会を取り次いだりしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族がフロアー内への入室制限があり、施設内での様子が知りたいとの要望があり、写真の提示をしながら近況報告を行った。	業務に関する意見や内容は、管理者が間に入る形で職員と代表、双方からの意見がお互いに届くような体制になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望の対応やパート職員の時間数等出来る限り希望に沿うよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が均等に研修を受ける機会が持てるよう勤務の調整等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で地域と交流する機会は中止になっているが、6月より運営推進会議が再開され、近隣のグループホームと交流が少しずつ出来るようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に聞き取りをしっかりと行い、思いや不安、要望などを伺っている。その後も安心して生活が送れるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望、困ったこと等相談しやすい環境をつくり、ご家族様が話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療への対応等個別に必要なサービスが受けられるよう支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事サポートや共有部分の作品作り等一緒に行う事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のトラブルや、医療の必要性等常にご家族様と相談し、一緒に支援している。必要に応じてご家族様にも対応をお願いする事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの人との交流が少なくなった。が、電話や手紙、リモートでも面会等関係が途切れない用ように出来る限りの事は行った。	コロナ禍以前は地元のお祭りのだんじりが毎年グループホームに来ていたり、民生委員と入居者が買い物に行ったりと盛んに交流していました。段々と以前のように再開していく予定です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立を防ぐため、ベッドで過ごす時間が多い方もフローア-で同じ空間で過ごして居る。1つの作業を数人でを行い入居者同士が協力して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後はこちらからのアプローチは行っていない。一度退居後、再入居された事はあった。相談や支援ではないが、今だご家族との関係を続けることが出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で伝える事が出来る方は希望や不安、思い等をしっかりと傾聴している。その思いはカンファレンス等で共有している。	自分で意思表示ができる入居者はそのまま要望を聞き、意思表示が難しい入居者などはできるだけ思いを汲み取って察するようにしています。意思表示が難しい以上ベストは難しいかもしれませんがベターになるように努力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、ご家族、前任のケアマネから情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子、体調を観察し常に職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に書面で提出する事により個々の意見が出やすくなった。それを元に集まってカンファレンスが出来た事で、他者の意見も参考になった。	ケアマネージャーがケアプランを作る際にも現場の職員全員から書面提出により意見を集めるようにしており、少数意見も反映できるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は細かく記録している。日々の申し送り等で情報を共有しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全面等で可能かどうかの検証を行ったり代表と相談したりと、発生するであろう問題を解決しながら可能な限りニーズにはお答えしようと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ制限があり、以前のようなかわりは出来ていないが、秋祭りには千歳楽の訪問があり、楽しむ事ができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご家族と相談し、主治医を決めている。その主治医の元で医療が受けられる様に支援している。	入居時に説明を行い、かかりつけ医を選んでもらっています。協力機関に受診の際にはホーム側で対応するようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に担当看護師が訪問している。情報を伝え相談もでき、受診にも繋げている。急変時にはその都度対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子や状態を情報交換している。退院前に担当看護師やワーカーさんから情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より定期的に重度化した場合や終末期を迎えて時の意向をご本人やご家族に確認し、希望に沿うように対応方針の共有をしている。	看取り体制はあるが、重度化すると家族との相談、要望に添うと、隣の難波医院へ入院となることが多い様子です。本人と家族にはホームでできること、出来ない事をきちんと説明したうえで選択してもらっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時フローチャートを掲示し、適切な対応が行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、防火区画外への避難誘導は統一している。地域との避難訓練は近々に行えるよう検討。	立地柄基本的に災害には強いですが、南海トラフの大型地震を想定し近くの避難所である高校への避難想定を道の状態も考慮し3ルート考えています。また、明確な解決までは至っていないが夜間想定も考慮しています。	夜間想定という人員が足りない中でいかに入居者を避難させるかを考え、担架を購入し実際に試しています。これからも試行錯誤し、よりよい方法へ昇華させて行く事に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の様子に合わせて行っている。入浴、排せつの介助は特に配慮し、利用者様によっては男性(女性)職員の対応を控える場合もある。	入居者によっては同性介助を考慮して支援にあたっています。どうしても同性介助が難しい夜勤の場合には、夜勤入りの際に挨拶をして信頼関係の構築に努めている様子が窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る範囲で選択肢を用意し選びやすいように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムに支障のない範囲でその方のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後のスキンケアやその日に着る服を自身で選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を外注に依頼している為、準備は行っていない。おやつで干し柿を作ったり、とうもろこしの皮むき等行っている。	基本的に食事は外注ですが、みそ汁は食材を買ってきてホームで作っています。コロナ禍以前は夏に夕涼み会として屋台形式で家族毎にテーブルを囲い団らんの場を提供していました。入居者が食を楽しむ事が出来るよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量や状態を把握し記録している。安全に摂取できるよう食事形態も細かく気をつけている。水分摂取は嗜好に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。モーニングケア、ナイトケア時には口腔内に傷など無いか確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表で排泄のリズムをつかみ、声掛け、誘導を行う事で汚染が少なくなるよう心掛けています。出来るだけトイレで排泄が出来るよう日中は二人介助で誘導している。	できるだけトイレで排泄が行なえるように安易にオムツ対応にせず、入居者の状態に応じ2人介助をしながら本人の残存能力を活かした支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔や水分、食事の摂取量を把握できるよう気を付けている。必要に応じて担当看護師に相談し、医療に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持のためだけでなく、入浴が好きな方には身体に負担のない範囲で楽しんでもらう。好きでない方には苦痛にならない様配慮している。	一般浴に浸かれない入居者に対し清潔の保持だけならシャワー浴でも可能ですが「浸かる」ほうがより心身に良いと考え、隣の難波医院の特浴を保健所に確認の上使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に配慮しながら休息出来るように支援している。また夜間の睡眠の妨げにならないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効や副反応等の理解に努めている。不明な事は協力医療機関の看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品を定期的に提供する事で落ち着かれることがある。花壇の草むしりや植え替え等楽しみながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は行えていない。お花見や買物支援等徐々に検討していく。	現在は行なえていないがコロナ禍以前は入居者と家族と一緒に食事に行ったりしていた。花見等の外出行事も含め徐々に再開していく方向で検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族でもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会制限になってから、電話や手紙のやり取りが増えてきた。曜日や時間を決めて定期的に電話をしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアー南側一面の吐き出し窓は全カーテンを開けて採光、解放感を出している。食事、おやつ時にはBGMを流しゆっくりと食事ができるよう配慮している。フロアーには季節感を表す壁面の作成や個々の塗り絵等の作品を掲示している。	共用フロアーには余計なものを置かず開放的で清潔な雰囲気があります。その上で季節の物や行事の写真を貼り、程よい装飾が居心地のいい空間作りへ寄与している様子が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人ゆっくり過ごしたり、ご夫婦で過ごしている。気の合う方と一緒にパズルやゲームをしてそれぞれ好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使われていた物を持って来て頂くようお願いしている。ご家族が居室に入居出来ない為、レイアウトは本人、職員で行っているが、本来はご家族と一緒に行ってもらう。	ベッドとカーテン、クローゼットのみ備え付けでついでにその他は入居者によりリスク面から物の配置場所を検討したり、家族との手紙や本人が作った装飾などを飾ったりして居心地よくなるように配慮している様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に出来る事はして頂く。事故が起こらないように見守りしている。		